

急性の大腸憩室炎からレメディーとQX-SCIO セラピーで回復したケース

日本ホメオパシーセンター札幌琴似 神田恵

JPHMA 認定ホメオパスNo.1035

Z E Nメソッド修得認定 No.0471

【クライアント】

49歳男性・既往歴なし。会社員、デザイン職。ストレスに感じているのは勤務時間（昼～夜中）

【経緯・タイムライン】（摂取したレメディーと選択理由）

4月17日(月)

夜に鈍い腹痛を訴える。

QX-SCIO測定で腸穿孔、腸閉塞、腸潰瘍など腸関連の疾病危険性を検知。炎症、損傷など約2時間セラピーを行う。

4月18日(火)

鈍い痛みのまま午後2時に出勤するが、夕方に激痛で早退。臍を中心に腹部全体に痛みがあり、10段階でレベル8程度。

粒レメディー→Acon.30C（突然始まった症状）、Mag-p.30C（急性の痛み）

豆腐半丁を温めて食べる。断続的な痛みでほぼ眠れず。

4月19日(水)

痛み衰えずレベル9。部位は左脇腹に特化。消化器専門病院を受診。脱水がみられるとして電解質輸液の点滴開始。血液検査で炎症の値が基準値を上回る。造影剤注入し腹部CT検査の結果、下降結腸壁に炎症による肥大と滞留便を確認。医師より憩室炎の診断。腸穿孔の可能性もあるとして入院を勧められる。

入院は断り、点滴終了後帰宅。抗生剤（レボフロキサシン）と解熱鎮痛剤（アセトアミノフェン）が処方されたが使用を見送る。

液体レメディー→500ml ミネラルウォーターに液) ペット07を10滴+MT カレンデュラを20滴 (どちらも炎症に対応) を入れ、1日かけ飲む。

粒レメディー→粒) RXサポート炎症 (強い抗炎症) を2時間おきに4回、粒) RX サポート放射線 (CTの害出し) を2時間おきに3回とる。

QX-SCIO→14時より長時間セラピー (炎症)

食事なし。夜から痛み和らぎレベル5に落ち着く。7時間連続で睡眠。寝汗多し。

4月20日(木)

起床時の痛みはレベル2。

液体レメディー→前日と同じ。粒レメディー→粒) サポート炎症 (抗炎症)、粒) サポート下痢 (大腸の回復サポート) をそれぞれ2~3時間おきにとる。

午前にリンゴすりおろし、夕方に辛みなし麻婆豆腐食す。

QX-SCIO→14時に長時間セラピー終了 (24時間)

4月21日(金)

痛みは笑うと響く程度、レベル1。

液体レメディー→前日と同じ。粒レメディー→粒) サポート下痢、粒) TSサポート生命組織塩 (失ったミネラル補給)

夜、痛みレベル0.5。焼き鳥、ポテトグラタンをよく咀嚼し食す。

4月22日(土)

痛みなし。仕事復帰。翌日以降も変化なし。

【結果】

最初の症状が出てから5日で回復した。病院で処方された抗生剤・鎮痛剤は使用せず、レメディーと QX-SCIO セラピーのみで対処した。大腸憩室炎は繰り返しやすい疾患であり、クライアントは「再発しないよう、食事などを見直しストレスがかからないよう気をつけて今後は生活したい」と話している。

【考察】

突発的な症状だったため、炎症に対応できる粒レメディーをメインにとり、それが奏功した。QX-SCIO セラピーを長時間かけることができたのもよかった。

なお、クライアントは薬や病院を忌避していたが、今回のケースではCT検査を受けることで、患部などの状態について詳しく知ることができ、適切なレメディーと QX-SCIO セラピーメニューを選ぶことができた。X線の害出しができるレメディーもあり、緊急時には恐れず検査を受けることで速やかな治癒につながると感じた。